



ごあいさつ

新しい年が始まりました。

昨年4月に京都府議会議員として初当選して、早くも8カ月が過ぎました。日頃から堤じゅん太の活動を温かくお支えくださる皆様に心から感謝申し上げます。

この間、京都府の果たす所管事務の把握、行政職員の方への聞き取り、政策の勉強、地域諸課題の現地調査を重ね、充実した活動を行う事ができました。



12月議会の一般質問にて

議会では、2回の一般質問をする機会を得ることができ初議会である6月議会では、

- ・乙訓地域の観光と特産品の振興について
- ・森林整備と林業の活性化について

先に行われた12月議会では、

- ・女性が輝く社会について
- ・認知症高齢者の方の徘徊防止対策について

質問を行い、皆様に提案した政策実現に向けて取り組んでいます。9月議会でも決算委員に選ばれ平成26年の決算を幅広く、詳細に検証して参りました。

これからも地味で困難な課題の中にこそ、本当に求められている政治があるとの信念の元、地域を回り、地域に根差した活動を行い、もっと住みよい京都府づくりを一步一步着実に進めて参ります。

本年も皆様方のお一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

認知症の方も安心して暮らせる京都府へ

超高齢社会を迎えるにあたって、これから認知症にかかる方は益々増えていく事が予測されます。堤じゅん太は長岡京市議会議員として認知症高齢者の方の徘徊防止対策に取り組んできました。その成果として長岡京市は「あんしんおでかけ見守り事業」を実施し、地域の見守り体制の充実やGPSを活用した早期発見のための仕組みづくりに着手してきました。しかし、長岡京市や大山崎町のように生活圏が隣の市町村と重なり合う地域では、長岡京市や大山崎町のような基礎自治体だけの取り組みでは十分に機能しません。

そこで、堤じゅん太は広域な見守りネットワークの構築の必要性と、その早期実現を求めて12月議会の一般質問を行いました。

京都府の答弁

- ・今年度中に府下全市町村で徘徊による行方不明者を早期に発見保護する「SOSネットワーク」を構築する
- ・高齢者の情報を任意で把握する「事前登録制度」も導入する
- ・ネットワークは自治体を中心に、地域包括支援センター・社会福祉協議会・自治会・交通事業者などで構成し、警察と連携を図る



平成27年12月10日の京都新聞より

今後も「SOSネットワーク」が適切に機能しているか、チェックを行って参ります。